環境こども新聞 No.10
ECOko エココ
Environmental Kodomo Newspaper.ECOko
2011年（平成23年）9月6日（火曜日） 第10号
イベント特集号

イメージキャラクターはミング・はっクン

今年のイベントには東日本大震災で被災地の宮城県女川町の４人の中学生と教師１人を招き、こどもシンポジウムを開きました。みんなで防災や新しいエネルギーなどについて話し合い意義のあるイベントになりました。

※「ECOko」とは環境問題を考えるこどもたち、Ecology＋Kodomoの造語です。

メディアからは聞けなかった大震災の生の声に驚いた

佐藤　聡司
大阪府
松原中学校1年
第17回生

力強く生きる女川町の友と絆を深めたい

小池　怜志
福岡県
福岡大学附属
大濠中学校２年
第17回生

僕がこのイベントを通して学んだ事、思った事は人間はつよいという事です。この基金の森や学校を作るなどの行動もそうですし、女川の人達を見ていて思った事でもあります。子供の妄言に近い夢を実現させるなんて凄い行動力ですし、女川の人達は地震なんて忘れたかのような振る舞いをしていました。彼らの話ではまだ日常とは程遠いはずであるというのに。

僕は最初夢みるこども基金の森で、地震をうけたのにやけに元気だな、やっぱり地震は忘れているのかなと思いましたが、食事の時に、地震の時の事や今の状況を聞かれたら大分辛そうにしていたのでやはり心が傷ついていたようです。しかし、ホテルでは元気にしていたので立ち直りが早いと思いました。この時点では当時の様子は知りませんからなんとも思いませんでしたが、会議が終わってからは彼等はとても強いんだなと思いました。

会議では女川の先生の話を聴いて、とても心が動きました。今まではテレビなどのインタビューでしか被災者の話を聴いたことがなかったので、生で、しかも地震時と直後に何か行動した人の話を聞くのは初めてで、自分がそうなったらとても恐ろしい、被災された方はとても未来に絶望しただろうと思いますが、同時に彼等には活気が満ち溢れていました。復興したいという希望がありました。彼らは地震を通して仲間内での絆を強めたと思います。彼らみたいな人がいれば絶対に復興できると思います。それにしても、地震の前から女川の先生はマスコミと繋がりがあったと聞いて元から活動的な人だったのだろうなと思いました。僕はこのイベントにまたいつか参加したいです。

「夢みるこども基金」ホームページはこちら

「環境こども新聞・エココ」の投稿がホームページからも出来るようになっています。

ホームページを開設している歯科医院の方は基金ホームページへのリンクをご検討ください。

URL：http://www.yumemirukodomo.jp

Webでの検索は　夢みるこども基金　検索　今すぐClick!

歯医者さんありがとう！私たちのキャンペーンは歯科医院などから提供していただいた金属冠で支えられています。

2面	女川の中学生の話に胸を打たれた（秋吉玖美）、「虹の松原」の松葉掻きに参加して（淵上瑠奈）、松葉掻き・イラスト（今泉智絵）
3面	二日間を振り返って（木村朱里）、四コマまんが（吉田幸太郎）
4面	夢みるこども基金の森・イラスト（畑宗志）、夢みるこども基金の森（橘田花梨）、あとがき（堀江健一郎）、新聞作りに参加して下さい、おことわり

この新聞の企画・取材・執筆は夢みるこども基金OB・OG会です
事務局：〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-12-6 赤坂Ｓビル2Ｆ
☎ 092-751-0021　FAX 092-751-0249　E-mail:jimukyoku@yumemirukodomo.jp

こどもシンポジウム 女川の中学生の話に胸を打たれた

秋吉　玖美
福岡県
杷木中学校３年
第17回生

私はこの夏、とても貴重な体験をしました。「東日本大震災被災地と結ぶ絆」というテーマでスタートした第17回の夏のイベント。被災地の女川町から先生と4人の中学生が参加しました。

こどもシンポジウムでは、震災時の状況や現在の様子を被災地の中学生が話してくれました。又、春に開かれた「こども会議」から参加している私たちも防災やエネルギーなどについて、考えていきました。

質問には、被災地の中学生も私たちも答えました。自分と違うたくさんの意見が出て、「この意見いいなぁ」や「参考にしてみよう」と思ったものも多かったです。でもやはり私の心を動かしたのは、被災地の先生や4人の中学生の生の声でした。私はまさかそんなに被害の大きい所から参加してくれているとは思ってもなく驚きました。又、それは出会った時から常に笑顔だったところからも、私をそう思い込ませていたのかもしれません。

しかし、ほとんどの人の家が津波で流されたり、家族や友達を亡くしたりしていることを聞き、とても衝撃的でした。

司会者からの質問に答えていく中で、私はすごく胸を打たれました。それは、女川の4人の言葉でした。どの質問にも、とても前向きに答えている姿を見ると複雑な気持ちになったけど、「気持ちをきりかえないといけない」や「流されたものを考えても仕方がないから前向きになる」などの言葉には、今の自分の考えを見つめ直さないといけないと感じさせられました。

最後にみんなで夢を語り合いました。そこには、東日本大震災に関連しているのもあり、この場所で全員が一つになることが出来たと思いました。被災地の人達が頑張っているので、私たちも何か支えになればと思います。

女川町の中学生たちとはこれからも交流していきたいと思います。

夢みるこども基金の森で佐賀森林管理署長の話を聞くこどもたち

「虹の松原」の松葉掻きに参加して

淵上　瑠奈
熊本県
水俣第一小学校４年
第17回生

第17回の夢みるこどもキャンペーンのイベントで佐賀県唐津市の「虹の松原」にて松葉掻きをしました。みんなで松葉掻きをする理由は、国の特別名勝に指定されているこの松原が、最近、病虫害や自然破壊などで枯死してしまうケースが目立つので、この松原を守ってほしいという事でした。

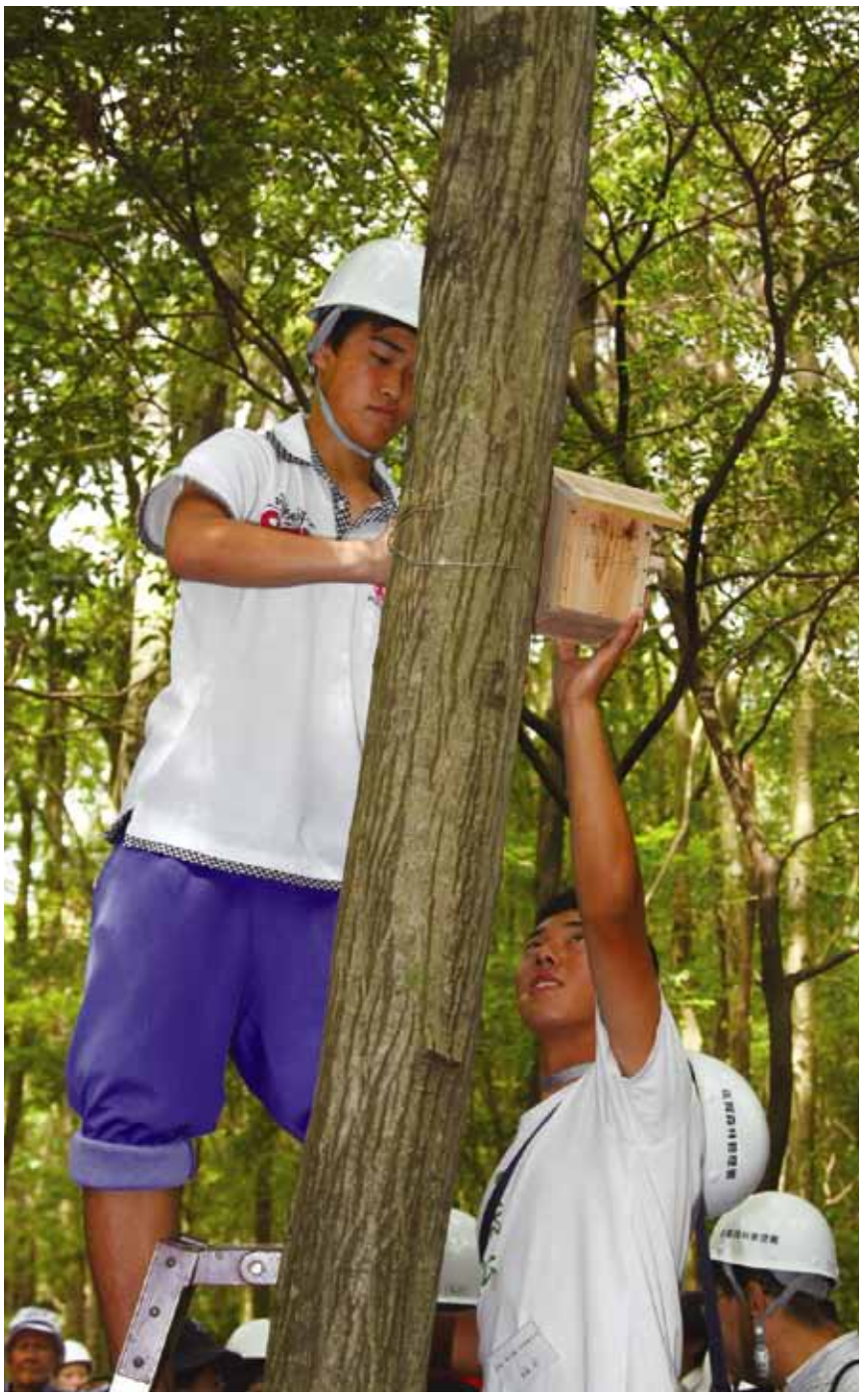
まず木の枝や、まつぼっくりを拾いました。次に、メインの松葉掻きをしました。道具が重たそうだったけど、かなり軽くて、作業は順調に進みました。たくさん松葉が集まったので汗びっしょりになりました。

私の小さな力でも、みんなと力を合わせることで、大きな力になって、「虹の松原」を守ることに少しでも役立つことができました。「虹の松原」が元気になったような気がして、なんだかうれしくなりました。

私たちの力で松林が元気になって欲しい！

今泉　智絵
福岡県
南当仁小学校5年
第17回生

松の成長を願いながらの松葉掻き作業ではあっという間に大量の松葉が集まりました。



手作りの巣箱かけ

夢みるこども基金の森を訪れた女川町の一行

二日間を振り返って

木村　朱里
宮城県
女川第一中学校３年

東日本大震災が3月11日に起こりました。その事で、このような素晴らしいイベントに参加でき、私はすごくうれしく思いました。

一日目は、夢みるこども基金の森での活動、スイカ割り、バーベキューと、前夜祭として全国から作文や絵で賞を受賞した全国の小中学生との交流を深めるイベントとなりました。そして、大自然とふれあい、心が安らぎました。森での活動で森の中を少しだけ散策しました。森の中の光景はすごくきれいで、もう一つ思ったことがありました。以前、震災前の私達が中学一年生だった頃、修学旅行で行った金華山という島の山を登ったときの事を思い出しました。今では行く事のできない場所ですが、2年前に見た風景、そのときの楽しかった出来事などたくさんのことが思い出されました。

2日目は大イベント、こどもシンポジウムなどがあり、震災の恐ろしさや、またこのような悲しい出来事が起きてしまわないようにするために必要な事や物などいろんな意見を出しあい、とても良い意見交換の場となりました。私達以外のみなさんの意見を聞き、やはり被災地の人々、私達も頑張らないと支援する側として何をしてほしいかが分からないという事を私は思いました。

このように2日間でいろんな人と出会い、一緒に活動して、新たに絆が結ばれたので良かったと思います。そして、移動する期間も踏まえて3泊4日の活動が楽しかっただけではないので良かったです。

これからは、夢みるこども基金の方々と女川町との繋がりがもっと強くなると思うので、今回の反省と次に生かして欲しい事などを振り返り、来年の活動に役立ててほしいです。本当にありがとうございました。

スイカ割りは歓声と拍手に包まれた

eco四コマ

マンガで考える地球環境

私たちのちょっとした心掛けで森を守ることができるんだよ！

吉田 幸太郎
鹿児島県
西伊敷小学校３年
第17回生

すくすくと伸びる森の木は基金のシンボルだ

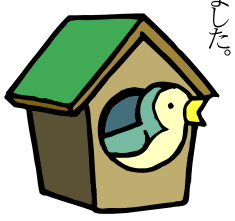
畑　宗志
福岡県
香椎小学校５年
第17回生

夢みるこども基金の森 じゅうたんの上を歩いているような気分

橘田　花梨
茨城県
石岡小学校６年
第17回生

2011年7月30日に私は初めて夢みるこども基金の森へ行きました。福岡のにぎやかな街から皆でバスに乗って二時間位たつと、周りのビルがなくなってきて、木が多くなり、山に入っていきました。福岡の街はとても暑かったけれど、森は涼しくて気持ちがよかったです。森は「緑のダム」と呼ばれるほどダムのように土に水をしみこませゆっくり川に流していることや森林は水をきれいにしてくれることを教えてもらいました。私は森林がそういう大切な役割をしていることがわかったので、地球には森林がなくてはならない存在だと強く思いました。森の中を歩いて行くと水がわきでている所があったり、いろいろな鳥の鳴き声が聞こえてきて、気持ちが軽くなってきました。その森は広葉樹の木が生えている森で、地面が落ち葉でいっぱいで、すごくやわらかくて、じゅうたんの上を歩いているようでした。そして、手伝ってもらいながら鳥の巣を作りました。この巣箱には小さな美しい鳥が来ると聞きました。私の作った巣箱にも来てほしいと思います。

森へ行き、みんなと一泊して、自分とは年齢の違う人と友達になれました。春のこども会議に参加した時には話ができなかった人達と話をすることができたり、女川中学校から来てくださった中学三年生と先生のお話を聞く事ができました。テレビを見ているだけではわからなかった被害というものについて、もう一度考えました。私は自分の住む茨城県で、屋根が落ちたのを見た位で怖がっていたけれど津波で家や家族をなくして、なにもなくなってしまったけれど、これからどのようにして進んで行くかが大切だという話を聞き、少し恥ずかしくなりました。このイベントに参加してこれから先の夢に向って頑張っていくことがとても大切な事がよくわかりました。参加させていただいてありがとうございました。



新聞作りに参加して下さい

「環境こども新聞・エココ」は、環境をテーマに企画から取材、執筆まで全てこどもたちの手により作られている新聞です。基金のＯＢ．ＯＧ会の会員はもちろん、それ以外のこどもたちも参加しています。

「環境」をテーマにしたことであれば、なんでも結構です。日々の生活の中で感じた事、体験した事や環境保護についての意見などをお寄せ下さい。

「環境こども新聞・エココ」は年３～４回のペースで発行を予定しておりますので、投稿は随時受け付けています。

投稿者は必ず氏名、所属（小、中、高校名と学年）、住所、連絡先を明記し顔写真を同封のうえ基金事務局へ送って下さい。絵、イラスト、漫画はカラーでお願いします。原稿、写真は基金のホームページからも投稿できます。

一人でも多くの方が新聞作りに関わってくれるのをお待ちしています。

● 投稿・問い合せ先 ●
夢みるこども基金事務局
〒810-0042　福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6-2Ｆ
☎092-751-0021　FAX092-751-0249
e-mail : jimukyoku@yumemirukodomo.jp
URL ： http://www.yumemirukodomo.jp

「環境こども新聞・ECOko」への投稿待ってるよ！

あとがき　夢を通しての絆づくりを

堀江　健一郎　福岡県　城南高校２年　第14・15回生

今号のECOkoは7月30日～31日にかけて行われた、第17回夢みるこどもキャンペーンイベントを中心に載せている。僕も、この夏のイベントに参加するようになって、今年で5回目となる。毎回テーマも異なりそれぞれ思い出に残る2日間である。平成7年に行われた第1回のイベントでは、阪神淡路大震災が起きた年で、震災で両親を亡くしたこどもたちを招き、阿蘇でホームステイをした。それから、第11回イベントでは地震で被災を経験した新潟県の山古志と福岡県の玄海島のこどもたちと交流。そして、今年は、まだ記憶に新しい東日本大震災に遭われた宮城県女川町の中学3年生4人と先生を招いてのイベント開催だった。中学校の卒業式前日、準備の最中に起きた地震・津波だったそうである。涙ながらに語ってくれた震災直後の様子や、自分たちの思い。僕にはない、人間の真の強さを垣間見たように思う。

僕が生まれた年に、この夢みるこども基金が産声を上げ、この17年間、日本でもたくさんの自然災害が起こっている。自然は自然の中で自己防衛していく力を備えているはずなのに、それが僕達人間の身勝手な行動により、うまく機能出来なくなっている。

佐賀県佐賀市三瀬村にある夢みるこども基金の森に、今年も足を踏み入れたが、人間のために整備されることのないこの森は、針葉樹・広葉樹が混在し、小川のせせらぎ、鳥の声、虫の声、枯葉を踏む音、まさに自然の音がいっぱいである。このような森の声を消滅させてはならないと改めて感じながら、この夏のイベントの幕を閉じた。

皆さん、僕達の活動は第1回から現在に至る第17回まで繋がっており、夢を通して絆を作っています。OB・OG会員以外の方からの投稿もお待ちしていますので、どしどし原稿を送ってください。

◎おことわり：この新聞はこどもたちの原文に基づいて作成しています。一部には筆者の事実誤認などがあるかもしれませんが、地球温暖化防止・環境保護に取り組むこどもたちの熱意と努力を読み取って頂きたいと思います。